



屋久島クエスト 緊急時対応マニュアル

2017年度 一般社団法人刈谷青年会議所会議所

目次

- 第1章 マニュアル趣旨
- 第2章 事業の中止の判断及び連絡
- 第3章 緊急連絡体制
- 第4章 危機発生時の対応(基本処置マニュアル)
- 第5章 登山及び遭難対策
- 第6章 水難対策
- 第7章 交通事故
- 第8章 近隣住民及び環境への配慮
- 第9章 予想される応急処置
- 第10章 参考資料
- 10-A 緊急時帰省手段

第1章 マニュアル趣旨

刈谷青年会議所が主催する、「屋久島クエスト」は、子どもたちが安心して諸活動にとり組み、成長ができる安全な場所ではなくてはなりません。

様々な事件・事故等においては、子どもたち一人ひとりの危機が、直接、「屋久島クエスト」の危機に結び付く場合も多いため、「屋久島クエスト」における危機管理は、事業にかかわる子ども、刈谷青年会議所メンバーが一体となる必要があります。

この度、以上の観点に立ち、「屋久島クエスト」における危機管理マニュアル」をまとめました。

推進するために、本指針を積極的に活用し、本年度「屋久島クエスト」に携わるすべての皆さま方のご協力を承り、より一層の子ども安全を配慮した活動にできればと思います。

第2章 事業の中止の判断及び連絡

(ア) 事業中止の判断基準

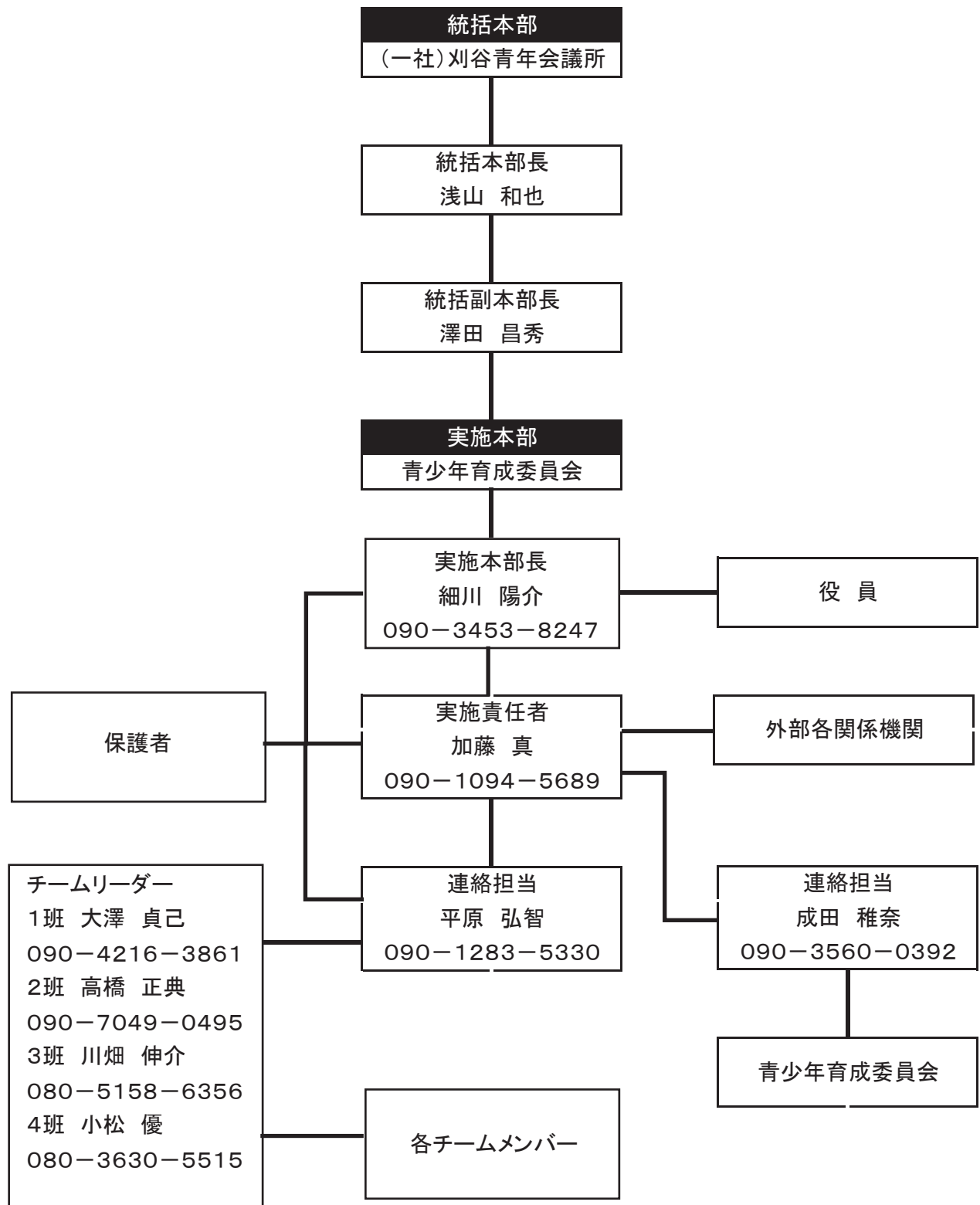
次の場合、本部団・青少年育成委員会は事業中止の判断を行う。

- 地震の注意警報が出た場合。
- 台風などにより警報が発令になった場合。
- その他重大な事象が発生し、児童の安全確保ができないと、判断した場合。

(イ) 事業中止の連絡方法

上記の判断により事業中止を決定した場合は、定められた連絡方法でその旨を連絡する。

第3章 緊急連絡体制



第4章 危険発生時の対応

基本処置マニュアル

原則：自分だけでは判断しない。必ず救護担当者の指示を受ける。
救急車の要請等は救護担当で行う。

① 救急(応急)措置

担当員は、子供の意識の有無・顔色・呼吸・脈拍などを確認し、負傷した児童への応急処置を行う。

担当スタッフは、周囲にいる者(スタッフ)に救急車(119番)の出動要請、委員長への連絡、他のスタッフへの応援を依頼する。

担当スタッフは、他の児童を、救急活動の障害にならない場所に移動させる。

救急車到着までの間、心肺蘇生法などの手当が必要と認められる場合は、的確に実施する。

救急車(レンタカー)の進入路を確保し、救急車が到着したら、速やかに、救急隊員を負傷者まで誘導する。

担当スタッフ等は、救急隊員に事故発生時の状況や応急措置の状況等を説明する。

担当スタッフ等は、救急隊員の指示により、救急車に同乗又は別途、搬送先の病院に向かう。

② 状況把握

担当スタッフ等は、医師に事故発生時の状況等を報告する。

医師から負傷の状況、診断、治療内容等を聞き、委員長へ連絡する。

委員長の指示のもと、負傷した子供に付き添うなどの対応をするほか、負傷の状況により委員長、副委員長は他のスタッフを病院に派遣する。
他の子供の動揺を抑えるとともに、状況を説明する。

③ 関係機関との連携

委員長の迅速な指示のもと、分担して次の対応を行う。

消防(119番)―救急車の要請を行う。救急車には、隊員の指示によりスタッフが同乗し、状況説明を行う。

病院―負傷者の治療のため、医師に状況説明を行う。

警察(110番)―委員長は状況に応じて事故が発生したことを連絡する。

保護者―負傷した子供の保護者へ連絡する。事故への対応の経過や本人の状況、搬送先など、事実のみ(見込みの話は混乱のもと)を伝える。

具体的な状況処置

救護担当 ○○○○(メンバー)、国民健康保険直営診療所

- 1 救護担当は会場内救護所にて待機。
- 2 引率者は、①軽症か重症か、②意識の状態、③外傷の有無、④怪我の発生時の状況等を観察や聞き取りにより行う。
- 3 救護車両を待つ。
- 4 救護担当が到着したら安全で安静にできる場所へ移動する。
- 5 引率者は救護担当(イ)2ついで報告する。
- 6 救護スタッフは状態を判断し、次の指示を行う。

「軽症」 治療後 プログラムへの参加

「帯同不可」 治療後 プログラムの見学、もしくは別室にて安静

「要診察」 救護車両にて病院へ搬送

「急患」 救護車両、救急車または救急ヘリにより病院へ搬送

※「急患」の判断を下したのちは、最短にて最寄りの医療機関に搬送すること。

第5章 登山時の遭難対策

原則：引率者は自分のグループに責任を持って行動すること。
非常時に遭遇した際も、引率者は、あわてず冷静に行動すること。

(ア) 遭難防止のために

- 1 引率者はグループ活動開始時及び終了時、必ず点呼を行う。
- 2 自然体験時などは、15分ぐらい毎にメンバーの確認をする。

(イ) 遭難者が出たら

- 1 引率者は2次遭難を防止するために、委員会メンバーが到着するまでその場にとどまる。
- 2 引率者は、①いつごろ、②どのあたりではぐれたかを確認し本部スタッフに無線機で報告する。→ガイドが担います。
- 3 本部スタッフは警察など関係箇所に連絡する。
- 4 本部は、すべてのグループにプログラムを中止し、本部に戻る旨の連絡をする。
- 5 以降については、関係箇所と打ち合わせにより決定する。

(ウ) 道に迷ったら

- 1 引率者は無線機を使用し、本部と連絡をとり、自分の位置を再確認する。

第6章 水難対策

原則：引率者は自分のグループから必ず目を離さないこと。
非常時に遭遇した際も、引率者は、あわてず冷静に行動すること。

(ア) 水難防止のために

- 1 引率者はグループ活動開始時及び終了時、必ず点呼を行う。
- 2 事前状況の確認として、安全な避難場所、ライフセーバーの位置確認を必ず行う。
- 3 海に入る際は浮輪及び浮遊具を必ず装着し、指定区域外には立ち入らないようにする。

(イ) 水難が起きたら

- 1 引率者は、2次遭難を防止するために、ライフセーバーに連絡後委員会メンバーが到着するまで、その場にとどまる。
- 2 引率者は、①いつごろ、②どのあたりではぐれたか、を確認し、本部スタッフに無線機で報告する。
- 3 本部スタッフは警察など関係箇所に連絡する。
- 4 本部スタッフは、すべてのグループにプログラムを中止し、本部に戻る旨の連絡をする。
- 5 以降については、関係箇所と打ち合わせにより決定する。

第7章 交通事故対策

(ア) 交通防止のために

- 1 周辺道路では、車両に注意し、交通ルールを守る。道路横断等の際は細心の注意を払う。

(イ) 車両事故発生時の対応

- 1 まず、けが人の対応を優先する。(4章参照)
- 2 関係箇所への連絡を行う。(3章参照)

第8章 近隣住民及び環境への配慮

(ア) 苦情防止のために

- 1 引率者はグループ員の公衆マナーについてチェックする。
- 2 周辺道路及び山道等へのごみ捨て等は絶対させない。

(ア) 苦情発生後の対応

- 1 メンバー内で指摘事項について周知徹底を図る。
- 2 近隣等苦情を出された方には実行委員長が責任をもって対応する。

第9章 予想される応急処置説明

暑さで倒れたときの応急手当

基本処置

風通しのよい涼しい日陰へ運び、衣服を緩めたり脱がせたりして、安静にします。

意識があるとき

- 1 手近のスポーツドリンクか、水約500ミリリットルに塩3～4グラム混ぜたものを飲ませます。水だけ飲ませるとけいれんがかえって強くなることがあります。
- 2 足を少し高くして静かに寝かせます。

意識状態が悪いとき

- 1 熱があったり、けいれんをおこし意識状態が悪かったりした時は、ただちに救急車(レンタカー)で病院へ運びます。

体温が非常に高く、意識の状態が悪いとき

- 1 昏睡(こんすい)体位(下あごを前に突き出させ、横向きに寝かせる)にし、吐いた物による窒息を防ぎます。
- 2 からだに水をかけたり、ぬれたタオルをからだにあてたりして、うちわや扇風機であおいであげます。アルコールで体をマッサージするのもよいでしょう。アルコールの揮発が熱の放散を
- 3 冷えずぎると震えがくるので、体温が38度くらいになったら冷やすのをやめます。

けいれんをおこしているとき

- 1 けがをさせないように、ひざに抱いたり、手足をつかんだりして頭や手足を保護します。
- 2 からだに水をかけたり、ぬれたタオルをからだにあてたりして、うちわや扇風機であおいであげます。アルコールで体をマッサージするのもよいでしょう。アルコールの揮発が熱の放散を
- 3 舌をかまないようにタオルやガーゼを巻いたり、割りばしやスプーンを両方の奥歯にかませるのも一つの方法ですが、無理やりこの方法を行ったり、ただ単に口の中に突っ込んだりしては

怪我をしたときの応急手当て

ねんざした時

- 1 痛む関節を安静にする。もんだり、引っ張ったりしてはいけない。
- 2 スポンジなどをあて弾性包帯やテープを使って、関節を固定しそれから冷やす。関節を冷たい水につけたり、氷のうをあてたりして、30分間くらい冷やします。冷やすと痛みやはれが軽くな

脱臼した時

- 1 氷のうで冷やす。
- 2 脱臼した関節が動かないように三角巾や包帯で固定する。

骨折した時

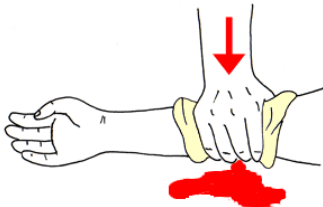
- 1 傷口から出血があればまず止血の処置を行います。
- 2 骨折したところを動かすと痛みが強くなり、折れた骨が神経や血管、それに周囲の筋肉を傷つけて内出血が強くなります。傷つけたところが動かないように安静にし固定します。

ハンカチ・バンダナを使った止血方法

直接圧迫法

- 1 きれいなハンカチ、バンダナ、タオル等を出血している傷口に当て、手で圧迫します。
- 2 出血が止まらない場合は、肘を伸ばして手の付け根に体重を乗せ、圧迫止血しながら救急隊の到着を待ちます。

直接圧迫法



きれいなハンカチ、タオル等を傷口に当て、手の付け根に体重を乗せて圧迫止血します。

止血帯法



上腕部

止血帯法: 直接圧迫法で止血できない動脈性出血の場合、最後の手段として上肢に限って行う止血法です。

- 1 止血帯になるもの(止血帯として幅5cm程度、長さ80cm以上の布を探します)、棒状のものを探します。(長さ20cm以上の頑丈な棒状のものを探します)
- 2 何か当て布を置いて、止血帯を上腕のつけ根にゆるめに巻き、硬く結びます。
- 3 止血帯の下に棒をさし込み、出血が止まるまで、静かに回し、棒を固定します。
- 4 止血帯法を開始した時間を記録しておき、救急隊の到着を待ちます。

簡易担架作成方法と搬送手順

① 1/3のところをやや右に物干し竿や丈夫な棒を置く

② 折り返す

③ 折り返された端より内側にもう1本置く

④ 折り返す

●毛布の利用

●着衣の利用
裏返しにして袖を通す
隙間なく並べる

※ボタンのあるものは必ずかける。

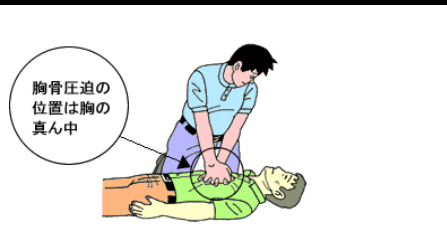
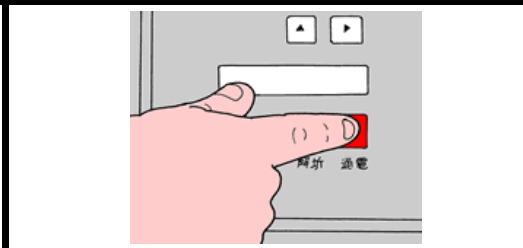
●搬送要領
(4人で運ぶ場合)
②
① ③
④



(3人で運ぶ場合)
②
① ③


作り方のポイント
両手で棒の先端を握り、腰を深く曲げ上着の裾を持って、裏返しになるように棒の方向に脱がせる。一人ずつ同じ動作を繰り返す。

心肺蘇生法並びにAEDの使用説明

<p>1 肩をたたきながら声をかける</p>	<p>2 反応がなかったら大声で助けを求め、119番通報とAEDの搬送手配をする</p>
<p>3 気道確保と呼吸の確認</p>	<p>4 呼吸がなかったら、人工呼吸を2回行う</p>
<p>気道確保し、「普段どおりの息」をしているかを 10秒以内で確認します。</p>	<p>1秒かけて、胸の上がりが見える程度の量を2回吹き込む</p>

<p>5 人工呼吸が終わったらすぐに胸骨圧迫</p> 	<p>6 AEDが到着したら</p> 
<p>強く・速く・絶え間なく！胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返して行います。</p>	<p>まず、電源を入れる。 (ふたを開けると自動的に電源が入る機種もあります。)</p>

<p>7 電極パッドを胸に貼る</p> 	<p>8 電気ショックの必要性をAEDが判断する</p> 
<p>体の水分を取り除き、電極パッドに書かれた絵のとおり、また皮膚にしっかりと貼り</p>	<p>心電図解析中は誰も傷病者に触れてはいけません</p>

<p>9 ショックボタンを押す</p> 	<p>10 ショックボタン</p> 
<p>誰も傷病者に触れていないことを確認したら、点滅しているショックボタンを押します</p>	<p>以後は、AEDの音声メッセージに従います</p>

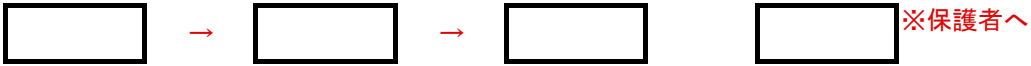
心肺蘇生とAEDの手順は、救急隊に引継ぐか、何らかの応答や目的のある仕草(例えば、嫌がるなどの体動)が出現したり、普段どおりの息が出現するまで続けます。

緊急時帰省手段

◆ 飛行機にて帰省する。※事業途中帰省は、一刻も早く帰省できる手段で対応します。

便名	機種	

※時期、その他理由により便数・時刻または機種を予告なく変更することがありますので、緊急時の飛行機での帰省時間は都度変更が予想されます。



※時期、その他理由によりダイヤ変更、料金変更が予告なく変更することがあります。

◆ 船にて帰省する。

便名	行き先	

※時期、その他理由により便数・時刻または機種を予告なく変更することがありますので、緊急時の船での帰省時間は都度変更が予想されます。